

練馬区の将来像を考える区民懇談会

教育分野分科会

第6回 議事概要

日時：平成20年1月15日（火）18:30～21:00

場所：練馬区役所本庁舎19階

出席者（敬称略、50音順）

石井和政、岩田幸彦、奥野雅司、小野明、加藤裕、鈴木洋子、諏訪本雄次、萩原美奈子、三澤ちづ子、森田明、渡邊健

1. 区事務局より連絡

－事務局（区）より、配布資料の確認及び傍聴者がある旨説明があった。また、懇談会委員のうち1名が辞退することの報告があった。

－本日の進め方・最終報告に向けた検討の進め方についての説明があった。

2. 討議

（1）中間報告に対する意見について

－事務局より中間報告に対する他部会及び分科会メンバーからいただいた意見について報告があった。

－コーディネーター高重氏より、中間報告の内容について意見をいただき、最終報告にむけて事務局で調整することの説明があった。

○委員

・中間報告の前に発表者等で最後の確認をしたが、その段階でいくつかの漏れがあることに気付いた。しかし、その段階では皆さんが参加しているわけではなかったため、全体の懇談会で発表し討議することとなったが、それについては本日意見を出すことでよいのか。

○委員

・第4回の懇談会では将来像についてAグループとBグループに分かれて討議したが、自分が属さないグループの討議内容については認識していなかった。発表の前には、互いの討議内容をおさらいしておくことが必要だったと思った。

・報告書にしていくうえで、言葉の使い方は大事だと思う。中間報告の最後の打ち合わせでは、討議の中で出てこない言葉、コンセンサスが得られていない言葉は使わないということであったが、それについてはどこまで厳密に捉えるのか共通認識を持つておくこ

とが必要と考える。

○委員

- ・家庭、学校、地域のテーマを上げたが、学校経営の改革、地域の連携を考えた場合、行政の課題というのでも取り上げる必要があると考えた。行政を含めて課題を設定して教育改革を考える必要がある。特に教育改革においては行政の指導や支援が必要であり、地域運営学校などを考える上でも行政抜きには考えられない。第3回までは行政の課題があったが、分散していったのでここで確認しておかないといけないと思った。
- ・東京都の教育委員会や他の自治体の教育委員会をみると教育委員会が教育改革の計画をもっており、それに基つき教育改革を推進しているので、地方分権にそって考える場合には行政の課題を落とすわけにはいかないと考えた。

○委員

- ・議論を経験した人にはわかるが、前提条件を知らない人には理解できないところもあり、中間報告案の用語の使い方について意見を出した。懇談会委員の思いは理解できるが、初めての人に誤解のないような表現であったほうがよいと考える。

○高重コーディネーター

- ・他のグループで出た意見についてこの場ですり合わせの時間をとることは現実的には難しい。今後アイデアを出して具体的にいった段階で他への意見など出していただくということでご理解いただきたい。
- ・用語の使い方などについては、最終報告案ができてきた段階でご意見をいただきながら調整・修正していくことにしたい。いただいた意見については事務局で調整し、反映していきたいと考える。
- ・最終報告に向けた進め方についてであるが、事前に合意を図っておくことが必要な点があるのでご確認いただきたい。前回の中間報告での将来像として、一つは人づくりをあげ、他に、家庭・地域・学校の連携、生涯学習・スポーツ分野での将来像を掲げている。この3つの将来像を振り返ると人づくりは、学校教育に限らず区民を含めて社会の使命として人づくりを目指すという内容となっていた。人づくりは最終的な目標と考えられるので、これを一番上におき、それを家庭教育や学校教育、地域（連携）、生涯学習・スポーツの分野で実現していかなければいけない。この分野で人づくりのためにどのような将来像を描き、どのような事業を展開していくのかをお考えいただきたい。
- ・本日は身近な感覚としてお持ちのアイデアから考え、それを出した段階で将来像なども改めて見えてくると考えられるので、本日はまずアイデア出しをお願いしたい。

○委員

- ・『教育の最終目標は子どもたちの育ちよう』という言葉があるが、どういう内容なのかわかりにくい。中間報告発表のための下打ち合わせでも申し上げたが、全体で出てきた言葉は変えられないとのことだった。言葉を変えるということだけでなく、内容が変わっ

てしまうのは問題だと思うので注意することが必要だと思う。

○委員

- ・『育ちよう』という言葉で一般の人が理解できるかが問題だと思う。

○委員

- ・教育の最終目標は、ということに次ぐ言葉としては重いので議論する必要があると考える。

○高重コーディネーター

- ・前回の将来像では人づくりを一つの目標に掲げていたが、実際には、教育についての将来像があがっていない中で教育の将来像という書き方にまとめており、中間報告のために形を納めたという段階である。

○委員

- ・将来像については未完成であるということを経験報告では申し上げている。

○高重コーディネーター

- ・将来像は最終報告に向けて変更されても問題ない。アイデアを出しながら最終段階に向けて収斂していくということによいと考える。

○委員

- ・『育ちよう』という言葉は教育グループの討議の中で出てきた言葉であるが十分に説明できるまでに至っていないので、最終報告に向けて議論するということがよいと考えている。

(2) 本日の進め方について

- ー家庭、学校、地域、生涯学習の4グループに分かれて、各自が提案したいアイデアシートに基づきすることとした。

(3) 討議

- ー4グループに分かれて討議を行い、その成果であるアイデア名称についてのみ、グループごとに発表した。
- ー主なアイデアは以下のとおりである。

○家庭グループ

- ・幼児教育の大切さを親に認識してもらう
- ・親同士の仲間づくり
- ・地域行事に親子共々参加をこころがける
- ・遊びを通じてこどもの仲間づくりをする
- ・教育の経験者に体験談を語ってもらう場を設ける
- ・グループ保育

- ・家庭教育学級
- ・キッズカフェ
- 学校グループ
 - ・学校教育改革の推進
 - ・練馬区教育行政の改善
 - ・専科教員の強化、リクルート
 - ・国語教育の充実
 - ・茶道はじめ伝統文化や邦楽等芸能の奨励
 - ・副校長の二人制度
 - ・地域運営学校を導入する中でPTAを再生する
 - ・学校の選択制を拡大する（小学校にも）
 - ・学校を地域のカルチャーセンター、ヘルスセンターに
 - ・教員が児童・生徒を指導する時間を増やす
 - ・優秀な教員を練馬区独自で育成する
 - ・学校教育への人的資源の活用
- 地域
 - ・道徳教育の強化
 - ・社会教育コンシェルジュ
 - ・練馬区ならではの食育
 - ・共同生活による奉仕活動の義務化
 - ・奉仕活動の活性化
 - ・宗教的情操教育
- 生涯学習
 - ・生涯学習を支援する設備の整備
 - ・図書館サービスの向上
 - ・生涯学習の活動団体を支援する
 - ・区民ニーズに対応した生涯学習講座
 - ・観客席のあるスポーツ施設の整備

3. 次回予定

- ・第7回は、2月4日（月）18:30～20:30に開催する。

(以上)